

革新市政の「実現」へ 川口候補迎え、婦人集会

三月三十日の午後五時三十分から、労働福祉会館中ホールにおき

まして、革新市政・市政選挙大牟田地区婦人決起集会を行い、約二百人の婦人が結集しました。

集会は、全日本労働大団体の婦人部の皆さんによる力強い大スピーチ、小ダイコのバチさばきの音で開会しました。

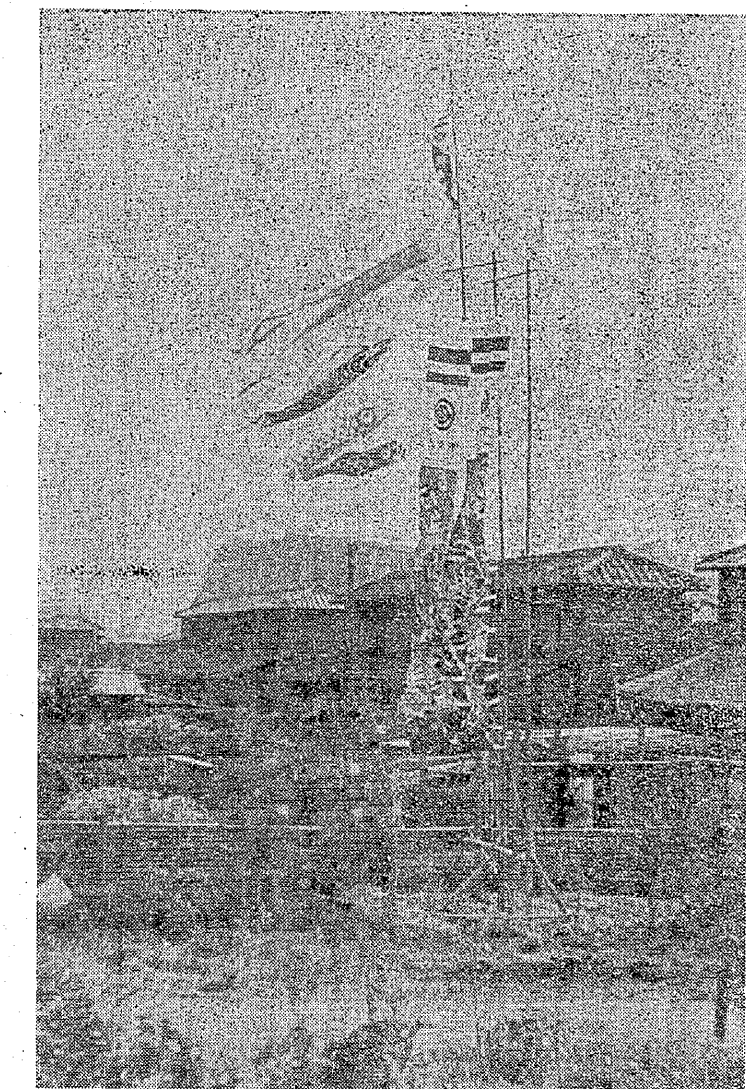


日本の戦後、憲法は、世界に誇れる平和憲法である。その基本は、①戦争を放棄する。②国民の基本的権利を尊重する。③民主主義を守る。ことにあつた。

地方自治はデカジャチとも読む。チホウに住むカタガタ自ら治めていく、ということであつて、憲法にいう民主主義につながる。今日いわれる「チホウジチ」というのは、中央政治(上)と地方政治(下)のつながりを強め、中央集権におおしを強める国の政策にはまった呼び方である。

立派な憲法に、第一次世界大

革新の会婦人選対を代表し、木村ケイさんより「長ずきた憲政に終止符をうち、県政・市政を革新の側に導く。皆が願ったように、今回は革新統一候補を擁立できたので、婦人の力を最大限に發揮していきたい」とあいさつがあり、続いて坪沼福徳県知事候補のメッセージを、革新の会の城の内さんから贈られました。



近づく男の子の節句を前に、四山社宅では早やばやと空高く泳ぐ鯉のぼり。きつと男の子が生まれたものと見える。

へら釣りの思い出

大先輩のはずが、痛い目に……

三川指導部 古賀 和男

ある年の十一月に、釣友のAさんと揃ってクリークに釣行したことがある。

快晴で朝の冷え込みが強く、霜がまっ白であったが、そこは底草が適度に生えており、あちらこちらかなりの数のへらを思わせるアワツケを発見。

対岸まで七、八メートルほどのせまいクリークで、絶好のポイントに入つたことを思わせたが、Aさんは私に遠慮してか近くに座らず、三十メートルほどはなれた対岸で釣りはじめた。

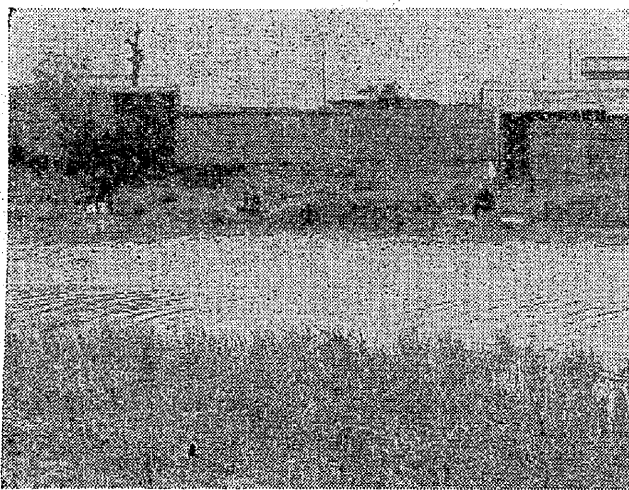
私は、見込んだ通りやがて二、三発目から中小型が釣れだした。フナがさわめて、にぎやかになってきた。

ちらちらとAさんの方を見るが、竿が立たない。

「どげんか？」

「あたりのなか」

「そんなら、俺の前さんきて見



春は、釣りにもってこいの季節だ。ここは諏訪川べり。釣りする人の姿がちりほり。

春の盆栽の手入れ

植え替えなどどうする?



春らんまん。でも、花見にうかれず小まめに手入れを。

盆栽。植え替え後二十日もすぎると肥料をほします。油カス七、骨粉三の割合で与えます。

シストン、またはジメートエート粒剤など。ダニ類にはケルセン、エラジドンなど。

さつき。開花前の管理にアブラ虫、ツツジグンバイ、ハマキ虫などの防除に、スミチオンの千倍液、またはダイアジノン剤の散布。

また、四月下旬にはベト病、花腐れ、菌核病などの予防にベンレート二千倍液を、越冬した病菌防除のために樹皮や地面に散布します。

カンノン竹の管理。温室から取りだし、直射日光はさけて木もれ日の状態にし、風通しを良くする。あまり風が強いと葉がさける

から水の中に落ち込んでいて、それに疊の三分の一ほどの底藻がからんでいる。Aさんは、その先にポイントを決めた。手をのばせば届きそうなヘチであった。

竿九尺。八十センチメートルほどのタナのようである。

エサ打ち開始後、間もなく竿が立った。強く曲っている。なかなか姿を見せない。

いよいよ立ち上がったの取り込みとなった。良型の引きを満喫している顔である。そして見事な型のへらが手網にすくわれ、フナにおさまった。しばらくして二匹目が同じようにフナにおさまった。

私は、相変らずの小型ばかりであるのに、Aさんに三匹目、四匹目が釣れるとこちらは内心おたやかでない。笑顔をつくらせてやることでやっている自分の顔から血の気が去った。自分なりの考えで釣っている。中には小物ばかりが寄ってくるのに、Aさんに六匹目があがった瞬間にはとうとういたたまれなくなり、小さくうなづいてポイントをはなれた。

なんとかへら釣りの先輩としての面目を保とうと、六十メートルほど移動して見たが、しかしそこでも思わぬ結局小ものだけに終わ

逆はその日のAさんは、待ち気味だった。

午後三時半の納竿までの成績はAさんが三十三・三十五センチメートルの大型十四ほどに中小型十匹、合計八キログラムほどの好結果だったのに、私は中小型の六キロほどに過ぎなかった。

そこで反省——。バラケを多く打ち込んだからといって、好釣果にはつながらない、ということ。

ことがありますが、用心のこと。消毒はマラソンにスミチオン散布を要します。

サンセベリア(虎の尾)。植え替え、株分け。古土をおとし、そして新しい用土に植え込む。用土は赤土と荒砂とを半々ぐらいに。ふやしたい場合は手株を切り取り、砂床に伏せておけば芽が伸びてくる。

カンパシヤボテンにシヤコバシヤボテンの植え替え。サボテン類は、他の植物よりも多量の炭酸ガスを出すので土壌の炭酸が早く、したがって用土に養分の欠乏が早く、空気や水の通りが悪くなりま

用土はできれば、荒砂にボレー(鶏の餌にするカキのカラ)二割ぐらい混ぜたもの。または水ゴケを切り、鉢から抜き出して古根を切りおとし、植えつけます。その後しばらく日陰にて栽培。なお長くのびた葉は切りつめた方がよい。

さし木は挿す前に、同じく二、三日前から日陰におき、砂挿し除のために樹皮や地面に散布します。

この項は、三川指導部の田上勇さん担当です。